

研究課題:「医科歯科連携、周術期口腔機能管理に果たす歯科医師・歯科衛生士の役割の調査」

研究者名:佐藤保1)、北村道彦2)、森谷俊樹3)、恒石美登里4)、稲葉大輔5)

所 属:1) 岩手県歯科医師会、医療法人佐藤たもつ歯科医院2) 岩手県立中部病院、3) 岩手県保健福祉部、4) 日本歯科総合研究機構、5) 岩手医科大学歯学部

<目的>

今回の調査研究は、岩手県における医科歯科連携、特に病院における医科歯科連携の現状を把握し、かかる連携における地区歯科医師会の取り組みが推進されるために、それぞれの地域の特徴と連携の有効性を検討することを目的に実施した。

<方法>

1. 調査対象機関

(1) 岩手県内病院のうち入院病床を有する全病院 (2) 岩手県内全地区歯科医師会

2. アンケート項目

(1) 病院アンケート

病床数、DPC、従事者数、歯科標榜の有無、歯科医療職種の有無、地域連携、地区歯科医師会との連携、連携対象の疾病、周術期口腔機能管理の算定など、医科歯科連携に関わる事項について調査した。また、歯科標榜のある病院は歯科関係の取り組みについて、調査を実施した。

(2) 岩手県内地区歯科医師会アンケート

岩手県内全地区歯科医師会に対して、地域の拠点となっている病院との病診連携の有無および体制に関する調査、医科歯科連携全般に関わる調査、周術期に関する問題点等について調査した。

3. ヒアリング

(1) 病院に対するヒアリング (2) 地区歯科医師会に対するヒアリング

<結果>

1. 調査対象機関からの回答

(1) 岩手県内入院病床を有する全病院92病院にアンケート用紙を送付したところ、66病院から回答を得た。(回収率71.7%) 66病院中特定機能病院を除く65病院についてアンケート内容を検討した。

(2) 岩手県内全地区歯科医師会13地区歯科医師会中、13全地区歯科医会から回答を得た。(回収率100%)

2. アンケート結果

(1) 病院アンケート

病院アンケートについては、地域歯科医師会と連携していたのは21病院であった。連携していない病院では連携していない理由は、人員不足、必要性を感じない、相手先が分からない等であった。連携している病院ではがんが最も多かった。退院時の歯科医療者の関与は少なく、切れ目なく在宅に移行するための課題を含め、質的調査が必要である。

(2) 岩手県内地区歯科医師会アンケート

岩手県内13地区歯科医師会では、11地区が既に地区中核病院へのNST参加、病棟内歯科健診、病院訪問歯科診療などを実施していた。